

「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 4 年 4 月 15 日

事業名称		認知症検診推進事業費（一般会計）〔認知症検診推進事業〕										
予算科目	款	3	民生費	項	1	社会福祉費	目	3	老人福祉費	事業番号	17	
事業の種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの（市の上乗せあり）											
担当部署・課長名	地域包括ケア推進（高齢介護） 課					地域包括ケア推進 係		課長名	石嶋 洋平			
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。								施策番号	2 - 2			
【施策名】 高齢者保健福祉の推進								総合計画書（ページ）	51			
1 この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。 当該年度に75歳になる市民（要支援要介護認定者及び認知症の診断を受けている者を除く）					① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標） 認知症検診対象者数 →						
	② ①をどのような状態にしたいのですか。〔簡潔に〕 認知症の正しい知識や理解をもつ 認知症の早期診断・早期対応ができる					② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標） 認知症検診受診者数／認知症検診受診見込者数 → 23/75（%）						
	③ そのために何をしましたか。 認知症検診の案内の送付（認知症の正しい知識や理解の普及啓発） 認知症検診の実施					③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標） ①認知症検診対象者数 ②認知症検診受診者数 ③認知症検診受診見込者数 →						
2 指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度		成果目標				
				平成31年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績		令和4年度目標		令和5年度目標		
	対象指標	①の数値	人	令和2年度新規事業	730	882						
	成果指標	②の数値	%		12.0	30.6						
	目 標	②の目標値	人		50	75		100				
目標値設定の考え方 対象者のうち、セルフチェック20点以上（19点以下の希望者含む）で受診いただける方を目標値とする。												
3 経費	事業費（実績）		円		1,414,286	510,433		※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、 8,250,000円 時間単価は、 4,200円 で計算してください。 【算出根拠】令和2年度決算数値（退職手当組合負担金、共済費も含む。）				
	財源	一般財源	円		286	433						
		特定財源（国・都・他）	円		1,414,000	510,000						
		（うち受益者負担）	円			0						
	人件費（目安）	所要人数（再任用以外）	人		0.5	0.5						
		所要人数（再任用）	人		0.0	0.0						
		職員人件費（再任用以外）	円		4,190,000	4,125,000						
職員人件費（再任用）		円		0	0							
事業費＋人件費		円		5,604,286	4,635,433							
4 環境変化等	（1）開始年度		令和2 年度									
	（2）環境の変化 高齢者の人口増加に伴い、認知症の人も増えている。											

事業名称	認知症検診推進事業費（一般会計）〔認知症検診推進事業〕			
担当部署・課長名	地域包括ケア推進（高齢介護）課	地域包括ケア推進係	課長名	石嶋 洋平

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和3年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について			
	・検診対象年齢以外の方も、検診の受診を希望。			
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）			
	☐ 取り組んだ ☒ 取り組まない	取組手法：		
		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
	(2)令和4年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点			
7 課題	(1)令和3年度に課題とした内容（「令和2年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）			
	・認知症検診受診者が少ない。 ・検診対象外の方からも検診受診の希望が聞かれる。			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和3年度に実施したこと。 ・セルフチェック20点以上の方に加え、19点以下の方も希望者は受診可能とした。 ・市報へ認知症検診推進事業の内容も含め、認知症についての特集ページ掲載や、中央図書館で認知症関連の図書展開催、コミュニティビジョンを活用し事業の周知を行った。			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案） 認知症について正しく理解を深めていただく他、認知症の早期発見に繋がるよう、対象者の設定や事業の周知など更なる検討が必要			
8	施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。） 施策名： 高齢者保健福祉の推進 ☒ なっている ☐ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名（ ）			
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など） ☒ 拡大 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止 【取組内容】 ・認知症の早期発見のため、現在の年度年齢75歳の方の他、高齢者ほっと支援センターの職員が、検診の受診を勧めたい方なども一部対象とするなど、対象者の見直しを行う。			
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 ・対象者の見直しについては、早期診断・早期対応の目的を踏まえ、他市の情報収集及び医師会等関係機関との調整を行っていく。			